

かけはし

第7号
梅が丘小学校だより
令和5年9月(学調結果号)



全国学力・学習状況調査結果とこれからの改善の方向について

本年4月に6年生が実施しました「全国学力・学習状況調査」の結果が7月末に届きました。この調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証、改善を図る、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。調査結果の分析を踏まえ、梅が丘小学校としての今後の指導についてまとめましたので、報告いたします。

なお、この調査で測定できるものは、あくまでも学力の一部であり、その結果だけで子どもを評価することはありません。今後も一人ひとりの学力を多面的・総合的にとらえ、よさや個性を伸ばす指導を行っていきます。

1 教科に関する調査結果・今後の取り組みについて



(1) 国語について

4年生時の「みえスタディ・チェック」以降ぐんぐん伸びを見せ、全国の平均正答率を上回る結果でした。特に「文章を読んで、その特徴を捉え、内容を要約すること」において強みが見られました。また、「資料を読んで分かったことをもとに、提示された条件に合わせて文章を書くこと」を見る問題についても、全国よりも高い正答率が見られます。

しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」特に「文中のひらがなで書かれた言葉を漢字で書く」や「言葉の意味に応じた漢字を書く」に課題が見られました。

今後は、考えをまとめたり新聞を書いたりするときに、タブレットだけではなく、手書きの文章を書くことを日常の教育活動に意図的に取り入れること等を通して、力をつけたいと考えます。また、学校で読書時間を確保し、本を読むことの楽しみを感じてもらいたいと考えています。

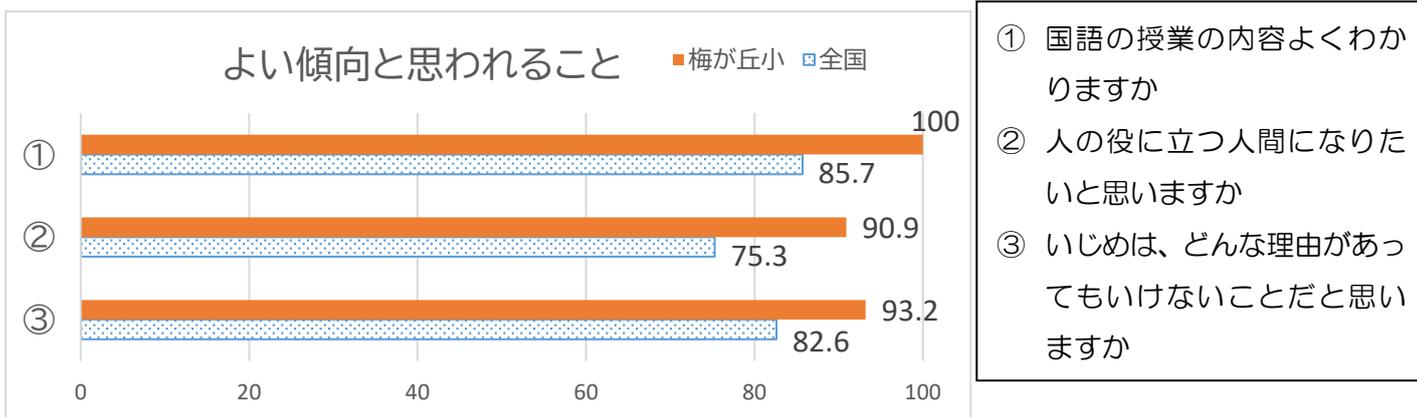
(2) 算数について

5年生時1回目の「みえスタディ・チェック」からは向上が見られますが、全国の平均正答率を下回っていました。全体的には、「変化と関係性」に強みが見られます。特に「伴って変わる2つの数量について表から変化の特徴を読み取る」問題では高い正答率が得られました。しかし、「数と計算」「図形」に課題が見られます。中でも、「そうなる理由を言葉や数を用いて記述できるか」や「求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるか」を見る問題に課題が見られました。

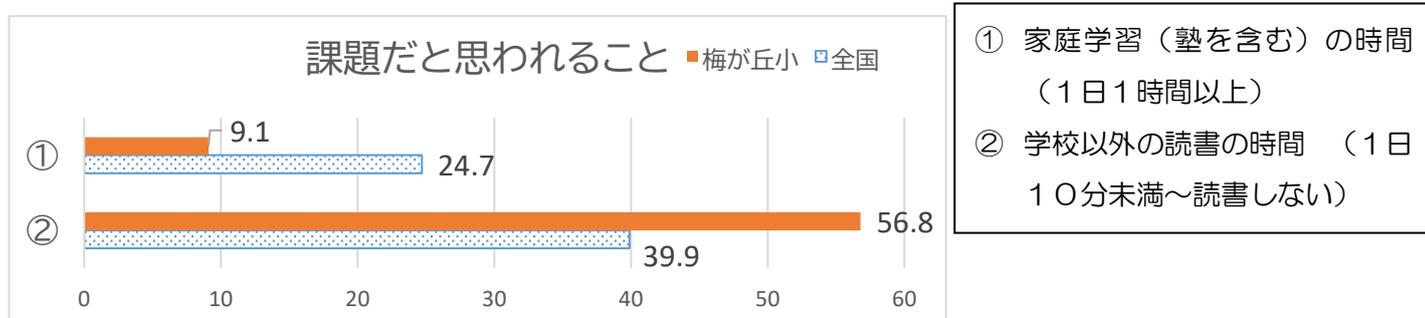
今後は、「数と計算」の基礎の定着を図るとともに、算数の授業内容を日常生活と結びつける場面を設定するなど、活用能力を身に付けられるよう取り組みます。家庭学習にも算数の復習課題を取り入れていきます。

2 生活・学習の状況について

児童質問紙の結果から、おもに次のような傾向が見られました。



※全国の場合と比較して、授業への意欲が高いこと、また、正義感や社会貢献への思いが強い児童が多いなど、よい傾向が見られました。



※全国の場合と比較して、家庭学習の時間、読書時間が短い傾向が見られました。

3 今後の取り組みについて

（1）授業改善に取り組みます

引き続き、全ての児童にとって学びやすい授業づくり、教室環境づくりを行っていきます。「視覚支援を行う」「授業の見通しを示す」など、全ての児童が学びに参加し「できた」「わかった」を感じられる授業づくりに努めるとともに、考えを説明したり、文章で書いたりする活動を積極艇に取り入れていきます。

（2）学習規律の確立に取り組みます

「梅小の『ちあお』（「チャイム」「あいさつ」「思いやり）」の取組を引き続き行います。「チャイム着席」や「持ち物の徹底」、「聞く姿勢」などの取組を進めてきた結果、成果が見えてきています。「思いやり」は、たてわり班そうじや委員会活動等、高学年が学校のみなのために率先して動く姿が見られ、よい校風ができあがってきています。

今後も、教職員で共通理解を図り、指導していきたいと思います。

（3）学習習慣、読書習慣がつくよう取り組んでいきます

「家庭学習の手引き」を配布するなど、家庭学習について保護者の皆様にもお願いしてきました。少しずつ家庭での学習習慣が身につけてきていますが、「児童質問紙」の結果から、家での学習時間や読書時間が短い状況があります。学習習慣や読書習慣がつくよう、さらに各家庭と連携し取組を進めていきますので、ご理解・ご協力をお願いします。